

性はいろいろ 自分らしく生きる ～人の数だけ性がある～

川中島の保健室 白澤章子さんの講演より



「性」と聞いた時あなたは、どんなことを考えますか？

これまで長い間私たちは、「性」というと男と女のこと、性別と言えば疑うことなく男か女、その男と女は別々のもの、身体も心も、もちろん性器も全く違う別々のものと考えられてきました。今、根本的に問い直されるようになり、「性」は男・女の二つに分けるのではなく、一人ひとりが違うということが分かってきました。

「性」は4つの要素から決まります

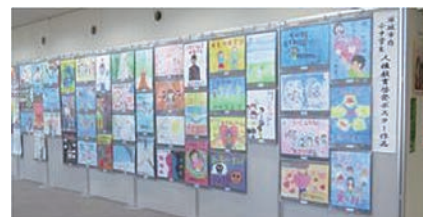
- ①こころの性（性自認） 自分自身をどのような性的な存在と認識するか。
- ②好きになる性（性的指向） 好きになる相手の性も多様である。しかし、生まれついでのものであるということが認められていない。
- ③からだ（生物学的な性、性器） 内性器は「性腺原基」から始まる。SRY遺伝子の発見。
- ④外見や振る舞い（性表現） 髪型、服装、しぐさ、話し方など外部的な表現

すべての人が、この4つの要素から成り立っています。

「性の多様性」と言うと、性的マイノリティについての理解と思いがちです。しかし、「性の多様性」とは性的マイノリティだけではなく、私たち1人ひとりが性の多様性を構成している一員であるという自覚が大切になります。これに気づくと、日常生活の中にある様々な思い込みや偏見、性的マイノリティの生きにくさも見えてきます。さらには、どのような性であっても安心して暮らせる共生社会をどう作っていくのかも見えてくることでしょう。

性は人権です。性について多数派が普通なのではありません。どんな人も決して同じではない状態こそが普通であるという発想が大切です。一人ひとりに違いがあることが普通であると考えることができれば、他者と自分との差異に優劣をつけずにすみます。

性はいろいろです。胸を張って「自分らしく生きる」ことが大切です。



参加者の感想より

- とても分かりやすく、性、自分らしい性を生きていく事の大切さを感じました。
- カミングアウトされた時に、「私はどうしたらいい？って聞けばいいんです。」と教えていただいた事が嬉しかったです。
- 色々な性の方がいて、それで良い。自分の思い込みを無くすよう、心掛けたい。
- 今まで知らなかった事を知れてハッとする事もありました。性を深く考える機会が出来て良かったです。アライになれるよう努力していきたいです。
- 子どものいる私にとっては、こういう内容を見ていると、自分の子どもにもこういう場面を見せて勉強させてあげたいです。
- 自分らしく生きて行ける世の中になって欲しいと思う内容でした。須坂にも保健室が欲しいです。
※この他にも多くの感想が寄せられました。参加者の皆さんありがとうございました。

保存版

人権教育啓発資料

人間を大切にする 明るい社会をめざして



常盤中学校3年 篠原莉愛さん

2022年度 小・中学生、一般応募作品最優秀賞の標語・ポスターです

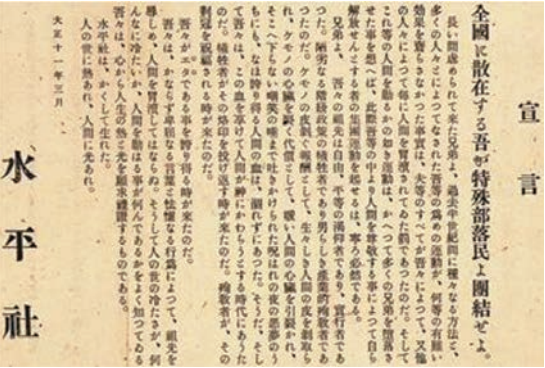
「部落差別解消推進法」が2016年12月に成立・施行した背景の一つに、インターネット上での部落差別の深刻化があります。今、インターネット上では被差別部落に対するデマや偏見、差別的情報が圧倒的な量で発信され、氾濫しています。何も知らない人ほど、そうした偏見を内面化し、差別的情報を学び、拡散する傾向にあります。

市民の皆様におかれましては、正しい理解や認識に基づいた行動により、一人ひとりが同和問題を自らの課題として、引き続き、共に取り組んでいただきますようお願いいたします。

須坂市・須坂市教育委員会
須坂市人権のまちづくり推進会議
須坂市企業人権教育推進会議



2022年は水平社創立100周年です。



「人権」の尊重が叫ばれる一方で、インターネットやSNS上での誹謗中傷、ヘイトスピーチ、性のあり方についての差別や偏見、新型コロナに関する人権侵害など、新たな人権問題が発生しています。こうした状況を考えると、私たちの身の回りには部落差別に限らず様々な差別があります。あなたもある日突然、差別の被害者や加害者となる可能性があります。

もはや部落差別は存在しない？

2021年に須坂市が行った人権に関する意識調査では「部落差別がある」と答えた人は40.7%「わからない」という回答が38.4%という結果でした。「もはや部落差別は存在しない」などといった意見もありますが、インターネット上では差別的な書き込みが氾濫し、就職や結婚などに際した身元調査に係る戸籍謄本・住民票の不正取得、不動産業者が取引の際に行った土地調査等の差別事象が発生しています。このように、同和地区の人たちに対する差別意識や無関心が今も存在することを理解し、差別の解消に向けて努力していくことが大切です。

そっとしておけば部落差別は自然になくなるのでは？

「知らなかった人にあえて知らせる必要はないのでは？」いわゆる「寝た子を起こすな」と言われる意見です。「知らない人に同和問題を教えることはかえって差別を教えることになる」「そっとしておけば年月がたつにつれて自然になくなるだろう。だから、やかましく騒ぎ立てない方がよい」ということですが、果たしてそうでしょうか？

明治4年の「解放令」によってなくなっているはずの部落差別がなぜ今も残っているのでしょうか。「そっとしておけば…」という考え方では、この問題の解決に少しも役立たないだけでなく、逆に人権意識を眠らせ、偏見が偏見を生んで結果的に差別を助長することになってしまいます。人権教育・啓発の場などで「知らなければよかった」という気持ちを抱く人もいるかもしれません。

しかし、「知りたくない」と自分にとって不都合な現実から目をそむけていては、解決にはつながりません。

自分は差別しないから、同和問題は自分には関係ありません？

同和問題は自分には直接関係がないと思っている人もいます。しかし、「自分は差別しないし、差別なんて関係ない」と思っている人でも、ふとした時に人を傷つけたり、傷つけられたりしている場合があります。また、「差別はいけないことに決まっている」と口では言いながら、自分に直接かわることとなると、迷信や因習にこだわったり、予断や偏見で、



全国水平社宣言を起草した西光万吉



常盤中学校 1年 山本陽輝さん

ものを見たり判断してしまうことがあります。

今は偏見を持っていないと思っていても、正しい理解をしていないと、何かの機会に心の中に潜んでいる偏見が顔を出してきます。ですから自分自身の問題として正しく理解する必要があります。

正しい理解を欠いたままだと、知らないうちに誰かを傷つけてしまうかもしれません。例えば、障害者差別は障がいのある人自身が解決すればいい問題ではありません。それと同様、部落差別も部落の人だけの問題では決してありません。周りの差別する側、黙って傍観している側の問題なのです。

もし部落に対する偏見や差別感情をあらわにする人に出会ったら、その誤りを指摘する自信はありますか？差別の芽は日常生活のそこかしこにあります。意識できていないだけで、あなた自身の中にもあるかもしれません。

インターネット上に広がる差別扇動表現

インターネット上では、部落のマイナスイメージを助長する表現がめずらしくありません。ネット上の悪意ある情報は匿名で発信され、^{はんらん} 歯止めなく氾濫し、現実社会に影響力を及ぼします。

また、部落差別はしばしば、遠回しな表現を用いて伝えられます。よくわからないからとネット上で「部落差別」という言葉で検索すると差別意識に満ちた情報が上位に表示されます。これらの情報から「かかわらない方がいい」「あの地区は怖い」等の偏見に満ちた情報を見たとき、差別を見抜くことができなければ、う呑みにしてしまうおそれがあります。そして、その偏見をさらに広める立場となったら、知らないままに部落差別を助長することになるのです。

2016年（平成28年）12月16日に「**部落差別解消推進法**」が施行されました。この法律ができた背景には、「現在もなお部落差別が存在する」とともに、インターネット上での差別的な書き込みなど「情報化の進展に伴って部落差別に関する状況の変化」が生じていることがあります。

部落差別をはじめ、あらゆる差別を解消するために

「差別」とは、基本的人権を不当に侵害し、本来平等であるべきものを不平等に取り扱うことです。私たちの身の周りには、職業による差別、女性に対する差別、障がい者に対する差別、外国人に対する差別、性的少数者への差別などなどいろいろな差別がありますが、特に部落差別は世代を超えて差別されるという点で、その他の差別よりも酷い差別といえます。同和問題を抜きにして人権問題を考える事はできません。同和問題は他人ごとではなく、自分自身の問題として真剣に考え、解決の努力を続けていくことにより、様々な差別の問題や不当性がみえてくるのです。

あなたが今まで部落差別に直面したことがなかったとしても、今後どこかで出会うかもしれません。

部落差別を解消するために必要なこと

同和問題を解決するためには、私たち一人ひとりが同和問題を正しく理解し、迷信や因習にこだわったり、予断や偏見でものを見たりせず、自分自身の問題として考え、「差別を許さない」という強い意志を持って行動することが大切です。

長野県の部落解放運動を切り拓いた中山英一さんは「**この世に存在する人間は一人残らず差別する人間であり、差別される人間だ。それを分かってもらいたい**」といつも語っていました。

世の中に偏見のない人はいません。大切なのは、そのことに気づいているかどうかなのです。自分は関係ないと思わずに、正しく理解し、学習を継続することで偏見をなくし、部落差別をはじめ、あらゆる差別を解消するため、共に歩んでいきましょう。



豊洲小学校 5年 堀内翼来さん